

放射線等に関する教育実践事例

学校番号・学校名	＜小・４３＞ いわき市立小名浜西小学校		
＜実施日＞	平成 28 年 7 月 19 日 (火)		
＜実践教科等＞	1 理科 ② 学級活動 3 総合的な学習の時間 4 その他 ()		
＜実践内容＞			
1 題材名 放射線から身を守るためにできること			
2 本時のねらい 放射線について正確に理解し、放射線から自分の身を守る方法を考え、学んだことを生かして生活しようとする態度を育てる。			
3 学習過程			
学習活動・内容	時間	○指導上の留意点 ●評価	
1 「放射性物質」「放射線」「放射能」の意味を確認する。	10	○ 電球をモデルに用いることで、「放射性物質」「放射線」「放射能」というものをイメージしながら理解できるようにする。また、DVD で霧箱の様子を見せることで、放射線を視覚で捉えられるようにする。	
2 本時のめあてをつかむ。 放射線について知り、放射線から身を守る方法を考えよう。		○ DVD を見せ、自然放射能、生活の中での放射線利用（レントゲン撮影や殺菌など）を知らせ、児童の身の周りに放射線があることを理解させる。また、DVD 中の「放射線も多すぎると危険」という言葉に着目させることで、本時のめあてにつなげることができるようにする。	
3 放射線から身を守るための方法を考える。 (1) 「外部被ばく」「内部被ばく」の言葉を知る。 (2) 外部被ばくを防ぐ方法について考える。 ①放射性物質から離れる。 ②放射線を受ける時間を短くする。 ③放射線を遮る。 (コンクリートなどの建物の中に入る。) (3) 内部被ばくを防ぐ方法について考える。 ①空気を直接吸い込まない。 (マスクやハンカチで口をふさぐ。) ②食べ物や飲み物に含まれる「事故による放射性物質の量」に気をつける。	30	○ 原発事故当時の自分の生活、経験を想起させることで、外部被ばくを防ぐ方法、内部被ばくを防ぐ方法について考えることができるようにする。 ○ 外部被ばくを防ぐ方法については、電球をモデルに用い、電球の光（放射線）を受けない方法について考えさせる。 ○ モニタリングポスト、放射線測定器（空間、食品）などについて触れ、そのような放射線の数値、情報を知ること、放射線から身を守ることに繋がることを理解させる。	
4 本時のまとめをする。	5	○ 本時で学習したことやこれからの生活の中で生かしていきたいことなどをワークシートに記入させる。 ● 放射線から自分の身を守る方法を考え、学んだことを生かそうとしているか。(ワークシート・発表)	
＜成果＞			
○ 事前アンケートで児童の実態を把握し、「放射性物質」「放射線」「放射能」の意味や違いをしっかりと押さえるところから授業を行った。			
○ 放射線教育用 DVD を授業の中で効果的に活用したことで、放射線に対する関心、理解が高まった。			
○ 放射線や放射性物質から身を守る方法について、これまでに得た知識や自分の経験をもとに、子どもたちなりに考えることができた。			
＜課題＞			
● 授業で学んだことをこれからの生活に生かしていけるよう、普段の生活の中でも機会を捉えて指導にあたりたい。			
● 教師自身が放射線についてより深く正確な知識を身につけておかなければならない。			
● 教育課程（学級活動）で放射線教育が各学年 2 時間ずつ位置づけられている。各学年でどのような内容の指導を行うのか、系統性のある指導計画があるとよい。			
資料作成担当者職（教諭）氏名（佐藤 寛子）			学校電話番号（92-4013）

